



## 謹んで初春のお慶びを申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。まちなか環境学習館は開設から10年目の、まさに節目の穏やかな正月を迎えることができました。今まで学習館に関わって頂いた多くの皆様のおかげとひとえに感謝申し上げます。この令和の元号も3年目を迎え、日本の元号として親しみを持って使われているのではないのでしょうか。一方、近頃は正月らしい光景もとんと見なくなりました。正月の古き慣習などがすでに日本文化の歴史の片隅に寂しく捨て置かれ、やや寂しく感じるのは年齢のせいばかりとも言えません。

さて、昨年年初からのコロナ禍（特に長い閉館期間、自粛期間）の影響で、まちなか環境学習館の学習室利用者は今年度はかなり減少しています。また、会議室の利用も殊の外、低調でした。学習館10年間で稀に見る数値です。それにもまして残念なのは、数字の回復が見込めないまま、あと3か月ほどで学習室の利用サービスがなくなる可能性があることです。館の呼称や運営形態がどうなるのかも詳細は未定ですが、時代の趨勢も考慮され、建物の利用形態、利用内容等の模様替えが検討されています。ただ、本原稿執筆時点ではまだ確定していません。

館長としては“1年の計は元旦にあり”、希望に満ちた学習館でありたいと願うところですが・・・。今後もこの未曾有のコロナ禍にも負けない新たな夢と希望に溢れる施設として生き続ける、いわゆる“持続可能な”施設になれればと願っています。

本年もご支援のほどよろしくお願い致します。

宇部市まちなか環境学習館 館長 加藤泰生

新年明けましておめでとうございます。去年はコロナに翻弄された一年でした。銀天エコプラザの運営も、長きにわたる臨時休館や、環境サロン等についてはオンラインによるWeb発信を導入するなど、大きな影響を受けました。

新年を迎え、これまで2期、開館準備期間を入れると10年間の活動を振り返り、反省するとともに気分を新たに、時代の要請に応じた社会貢献の方向性を模索したいと思います。

コロナを踏まえた時代の要請とは何でしょうか。この危機の中で、いろいろなこと、自分の人生どう生きるか、このままで世界は持続可能か等も含めて一度ゆっくり考え直す時期ではないのでしょうか。

銀天エコプラザも宇部市環境学習館の役割を発展させるという観点から、この2、3年は学習室の利用者に対して環境サロンやESD研修会、おそうじ隊、哲学カフェや読書感想会への参加など働きかけをしてきたつもりですが、期待するほどの成果が得られたわけではありません。

今世紀に入り持続可能な開発のための教育ESDについての認識が高まり、我が国においても教育全般にESDの要素を意識して盛り込む動きが出て既に20年近くが過ぎますが、その効果が明らかに認められる状況には至っていないように思われます。

今後は、銀天エコプラザの運営においてもESDの推進とポータルサイトうべっくるの活用に重点を置いた方向性を模索したいと思います。

NPO法人うべ環境コミュニティー 理事長 浮田正夫

## イベントのお知らせ

### 第109回まちなかおそうじ隊

日時：2021年1月31日（日）15時～

集合：まちなか環境学習館前

一緒にまちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードを掃除しましょう！終了後は茶話会を行います。申し込みは不要です。直接学習館前にお越しください。道具もお貸しします。

2月25日（木）18時～20時

「第5回環境サロン」（まちなか環境学習館）

3月20日（土）15時～17時

「第6回ESD研修会」（宇部市立図書館）

### 2020年度第5回ESD研修会

#### 『宇部市におけるESDおよび

#### コミュニティ・スクールの取り組み』

話題提供：藤井一憲先生（宇部市立上宇部中学校校長）  
「中学校教育におけるESDの取り組み」

日時：2021年1月30日（土）15時～17時

場所：宇部市立図書館講座室（宇部市常盤町一丁目7番1号）

中学校におけるESDおよびコミュニティ・スクールの取り組みについて、現場の校長先生から話題提供をいただき、宇部市における今後の学校と地域の連携のあり方について、宇部市教育委員会、参加者の皆さまと議論し、理解を深めます。資料代500円（高校生以下無料）、申し込みは不要です。Facebookでのライブ配信も予定しております。

## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～21時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）



## 第4回ESD研修会の概要の報告です

### ESDうべ推進協議会事務局

2020年12月12日、山口県ひとづくり財団県民学習部生涯学習推進センターの赤田博夫さんと、やまぐち総合教育支援センターの岩崎和弘さんをお招きして、それぞれ「山口県における社会教育の現状」と「ESDに配慮した教員研修について」のお話をいただきました。当初の予定では当協議会の参与のお一人である篠崎圭二さんに「山口県におけるSDGs、ESDの取り組み」についてお話していただく予定でしたが、図らずも新市長となられ、当協議会の副会長でもある赤田さんに急遽代役をお願いしました。冒頭、「SDGsの推進に取り組んでいく」という市長のメッセージを披露させていただきました。

最初のお話では、教育は学校教育だけでなく、家庭教育、社会教育があるが、一般には9割の人が教育＝学校教育と捉えている。社会教育は青少年及び成人に対して行われるもので、拠点としては、公民館、図書館、博物館、青少年教育施設など。山口県はコミュニティ・スクール（CS）の先進県であり、宇部市でも平成24年には全小学校にCSが導入された。しかしはじめは手探りの状態であった。学校は地域人材を招くことに否定的だったし、地域にとっても学校は入りづらいイメージで、両者

に垣根があった。しかし学校側も「いじめ」への対応、教員の多忙化なども抱え、違った角度から子ども達を見ることの大切さに気づき、ひいてはそれが学力向上にも効果があるという認識を持つようになってきたということ。子ども達も地域の人から教えてもらって楽しい、勉強になるという声も多く、先生にとっても一息つける時間となっている。しかし実際にはまだ地域により格差があり、さらに充実を図っていく必要があること、そのためには地域の人働きかけ、ふれあいセンターの役割、学校側の受入れが大事とされた。また今年度県内すべての高等学校にもCSが導入され、早速、ひとづくり財団でも12校（16チーム）が参加する先進的な興味深いプロジェクトが進められているようで非常にたくましくもあり感心しました。

二つ目のお話については紙面の都合上詳しくはうべっくるブログにまとめたいと思いますが、学校教育におけるESDの位置づけについての体系的な説明、各学校における実践事例の紹介とともに、やまぐち総合教育支援センターにおける教員研修でのESDの視点について説明がありました。学習指導要領の趣旨の周知において、SDGsやESDの関連づけが重要ではないかと感じられました。

## 第16回宇部地区レスポンシブル・ケア（RC）地域対話集会在開催されました

レスポンシブル・ケア（RC）活動をご存知でしょうか。RC活動とは化学品を取り扱う企業が製品の開発、製造、物流、使用、最終消費、廃棄のすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動のことです。高度経済成長期、化学工場などが原因の深刻な環境汚染や工場での大事故が発生し、住民の間で環境保全の機運が高まってきました。そのような中、1985年カナダで企業が自らの意思で安全、環境対策を行い、積極的に住民とコミュニケーションを取ろうとするRC活動が始まりました。現在は日本を含む世界中の国々に広まっています。

RC地域対話集会は、コミュニケーションの充実による企業と住民の相互理解を目的としたRC活動の一環で、宇部地区では2004年に1回目が行われて以来、1～2年に1度行われています。うべ環境コミュニティー（UKC）は1回

目（当時はうべ環境倶楽部）から市民との間の橋渡し役として関わってきました。

第16回宇部地区レスポンシブルケア地域対話集会在が2020年11月28日、日本化学工業協会RC委員会会員企業の宇部興産(株)ケミカル工場、同藤曲工場、セントラル硝子(株)宇部工場、テクノUMG(株)宇部工場の4工場主催で行われました。コロナ対策でWeb開催となり、自宅での接続が難しい地域住民参加者のために各地区のふれあいセンターに接続拠点が設けられました。日本化学工業協会によるRCの説明に続き、UKCから4工場のPRTRデータ\*についての報告、各工場から活動紹介があり、後半ではテーマ討議が行われました。詳しくは「うべっくる」のブログをご覧ください。

[http://ubekuru.com/blog\\_view.php?id=5621](http://ubekuru.com/blog_view.php?id=5621)

山本裕子（うべ環境コミュニティー）

\*PRTRデータ：各工場から大気や水環境に排出したり、廃棄物として工場外への移動した健康・環境影響が懸念される化学物質の量

## 職員より新年のひとこと

☆いつも出来ることが当たり前でなかったことを知った昨年。新年はWith CORONAを一層意識して良い年にしたいです。（山根好子）

☆「一日一前」前へ進もう。（松尾秀則）

☆天空海闊(てんくうかいかつ)：大空や海のように広い心を持ち、何のわだかまりもない様。

今年は早くコロナも終息し、明るい年になるよう祈念します。（森山昭充）

☆自分のペースで無理せず、頑張ります。（浦川佳樹）

☆環境問題について、常に最新の情報を求めています。（柳洋平）

☆4月より、新たな「うべ環境コミュニティー」としてスタートします。環境保全・啓発に関する活動をより多岐にわたり、進めていきます。（木村和美）

☆小さくてもいい、今の暮らしを少しでも変えていくチャレンジを積み重ねていきたい。（山本和毅）

☆これまでの経験を糧に、これからも頑張りたいと思います。（柏井真規子）

☆不安の多いこの頃ですが、笑顔を忘れず明るい年にしたいと思います。（山本裕子）